

第28回

日本保育保健学会 in ほっかいどう

いつもの子育て・
ふだんの保育
～コロナを超えて～



会期

2022年
5月21日(土)～22日(日)

会場

WEB開催 <https://www.ec-ph.jp/nhhk28>

会頭

古田 博文 (医療法人社団ふるた小児科クリニック 理事長、
北海道保育保健協議会 会長)

北海道
開催!

大会
参加費

日本保育保健協議会 会員:5,000円 非会員:8,000円
学生:無料(学生証必須)
※随時入会受付中

参加
申込

いずれかのホームページよりお申し込みください

大会ホームページ
<https://www.ec-ph.jp/nhhk28>



または

日本保育保健協議会ホームページ
<https://nhhk.net/>



【大会事務局】北海道医師会内「北海道保育保健協議会」

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL.011-231-1725 FAX.011-221-5070
E-mail hoikuen@m.douji.jp

【運営事務局】株式会社プランニング・ホッコー

〒007-0805 札幌市東区東苗穂5条1丁目6-33
E-mail nhhk28@ec-ph.jp

テーマ 「いつもの子育て・ふだんの保育～コロナを超えて～」

会場 WEB開催

1日目

5月21日(土)タイムスケジュール

	WEBライブ配信	オンデマンド配信
	12:00～ 受付開始	
	開会の挨拶	
13:00	13:00～13:05 開会式	
	13:05～13:35 会頭講演 「コロナとWEB開催の可能性について」 演者 古田 博文 (第28回日本保育保健学会会頭)	一般演題
	13:35～13:40 休憩	
14:00	13:40～14:30 会長講演 「これからの保育保健を考える」 演者 藤田 位 (日本保育保健協議会会長)	
	14:30～14:40 休憩	
15:00	14:40～15:30 教育講演1 「食物アレルギーの診療について」 演者 大倉 有加 (KKR札幌医療センター 小児科)	
	15:30～15:40 休憩	
16:00	15:40～16:30 教育講演2 「コロナ禍における小児虐待について」 演者 石倉 亜矢子 (函館中央病院小児科科長)	

2日目

5月22日(日)タイムスケジュール

	WEBライブ配信	オンデマンド配信
	8:15～ 受付開始	
	9:00～9:50 教育講演3 「当院で経験した新型コロナウイルス感染症の小児例について」 演者 佐野 仁美 (市立札幌病院小児科部長)	9:00
	9:50～10:00 休憩	10:00
	10:00～11:30 教育講演4 「周産期うつ病」 総論 羽田 直子 (札幌トロイカ病院精神科医長) 各論 高橋 義人 (桑園メンタルクリニック院長)	11:00
	11:30～11:35 休憩	
	11:35～12:00 委員会報告(予定)	12:00
	12:00～13:50 シンポジウム テーマ「コロナ後のいつもの生活を取り戻す」 シンポジスト 「コロナ禍における小児の心の問題」 須見 よし乃 (こころと発達クリニックえるむの木 院長) 「保育現場における 新型コロナウイルス感染症対策」 角田 一魅 (江別市やよい保育園 看護師) 「令和2～3年度の保育園調査から」 吾田 富士子 (藤女子大学人間生活学部子ども教育学科教授) 「コロナ禍における 小児科クリニックの診療状況について」 古田 博文 (ふるた小児科クリニック)	一般演題
	13:50～14:00 休憩	13:00
	14:00～14:05 次回(第29回)大会 会頭挨拶	14:00
	14:05～14:10 閉会式	

会頭挨拶



第28回日本保育保健学会

会頭 古田博文

医療法人社団 ふるた小児科クリニック 理事長

北海道保育保健協議会 会長

今回、学術集会の会頭を務めさせていただいている北海道札幌の古田博文です。

準備が土壇場で滞り、会員の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。昨年の岐阜の会では、何としても現地で！と臨みましたが、第5波に阻まれてしまいました。「今年こそは」と、現地+WEBのハイブリッド開催を昨年末までは目指していました。（実際、昨年10月以降、「奇跡的」と思えるほど感染者が減少してきていました）まさかの?? オミクロン株の流行で、ギリギリまで検討しましたが、今年もWEB配信のみとなります。

とりあえず、会場予定だった北海道大学をキャンセルして、配信用の会場を手配しつつ、やや自転車操業的な毎日が続いていますが、なんとか成功させたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

未だにコロナ収束の目途は立っていませんが、テーマは「いつもの子育て・ふだんの保育～コロナを超えて～」のままでなんとか頑張りました。自分のクリニックに来る子どもたちを診ていると、2020年以降、典型的な不登校だけでなく、体調不良を訴えて受診する子が学童を中心に明らかに増えました。学校や保育園では、「コロナが疑われる」症状のある子と更に同胞が、次々と自宅療養となります。日常的には、マスク・うがい・手洗いの励行、さらに「黙食」を求められました。運動会・学習発表会・合唱コンクール・修学旅行などは中止・延期・規模の縮小化され、クラブの大会なども中止が相次ぎました。もちろん、子どもの健康を守るため、社会を守るためよかれと思っただけの措置ですが、これらのコロナ対策は子どもたちの成長にとってとても貴重な時間を奪ったのかもしれない。

比較的、就学前の小さい子どもたちには、際立った影響が少ないとされていましたが、コロナの先が見通せない中、小さい子どもたちに「何か」が起きる前に私たちがやるべきことは何なのか？を考える機会となれば幸いです。

是非、北海道に来たつもりでご参加ください。

コロナの話題を取り上げても、発表するころには状況が変わってしまって up-date が必要です。